

## 先行研究の適切な引用と自論との区別

論述は、これまでの研究で明らかになっていること、論じられていることを引用しながら進めます。適切な資料(先行研究)の引用は、レポートで自論を補強・強化するための重要な役割を果たします。引用する文・段落は、自分の主張と引用先の著者の主張を明確に区別するため「」でくくって、あるいは、長い場合は2字下げで、数行にわたって、原文通りに提示します。また、要約して掲げ、「～と〇〇は指摘している」などと書く場合もあります。いずれの場合でも、自論との区別のない引用や、限度を超えた引用は、剽窃(下記コラム参照)としてとらえられる可能性もあります。引用の扱いには、十分注意しましょう。

引用・参照した文献は、レポートの最後に引用文献・参考文献などとして挙げ、読者が資料を調べ確認できるように引用先の著者名、タイトル、出版社、出版年、ページ番号なども明記しましょう。適切な引用が自論の信頼性を強化することになります。

また引用で、してはいけない行為として「孫引き」があります。これは「引用の引用」とも言われ、他の文献に引用されたものを原典にさかのぼり調べることなく、そのまま引用することです。このような行為もしてはいけません。引用に誤りがあるかもしれませんし、引用先の著者の主張である原典の前後の文脈などを考慮することなく自論を展開することは、結果として誤解による的はずれな主張を行ってしまうことがあるなど、様々な問題があるためです。必ず、原文にあたって確認しましょう。

### 剽窃 — ひょうせつ — PLAGIARISM

提出されるレポートの中には、残念ながら、参考資料をただ丸写したのやインターネットで見つけたサイトをコピー&ペーストしただけのものも見受けられます。こうした行為は「剽窃行為」(plagiarism)といい、絶対にしてはならないことです。

他人の説をあたかも自分の説であるかのように述べるのは、学問の世界では許されざる行為であり、著作権法上の問題も生じます。自分の主張と参考にした文献からの引用は明確に分けて表記し、引用部分については何から引用したのかを明示しなければいけません。その示し方は、学問分野や書式(縦書きや横書きか、また和文か欧文か等)によって異なりますので、自分のレポートにあった形で適切に記す必要があります。レポート執筆の際、参考にした論文等ではどのように文献の引用をしているのか、またどのようにその出典を明示しているかを確認して、内容だけではなく、その書式も学び、自分のレポートに活かしましょう。

自分自身の力を信じて、  
キミにしか書けない  
レポートを書こう。



剽窃・カンニング等の不正行為を行った学生に対し、大学は厳正に対処しています。